



確かな学力の向上をめざして【1月】

■指導が変わる！子どもが輝く！ ～「遊び」から「主体的な学び」へつなぐ教育の架け橋～

子ども達の主体的な学びの姿を引き出すそのヒントは幼児教育にあります。

中部地区の小学校でも、幼児教育の視点を生かした関わりや指導方法の改善が行われつつあります。

【令和7・8年度鳥取県幼保小の架け橋プログラム推進事業校

聖郷小校区の1年目の取組から】

聖郷小学校1年生と、こがねこども園5歳児との秋のおもちゃづくり交流。生活科の単元『たのしいあきいっぱい』で、1年生が作った秋のおもちゃで5歳児と一緒に遊びを楽しむ活動です。この授業までに、1年担任は、こども園の保育参観や保育者との協議をとおして子どもがどのような育ちや学びをしているかを確認しました。それを生かし、興味・関心に応じて子ども達が自ら活動を進められるよう、学習環境を整え、子ども達の思いを引き出す援助をしました。



自分で選ぶ

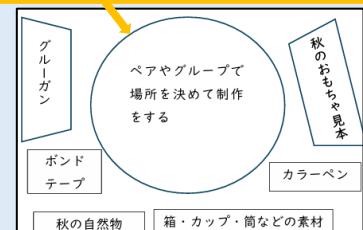
**【自分で選べる
学習環境】**
自分で選択して、自分で決めるができるように、材料や道具を十分に準備し、配置しました。

環境構成



【存分に探究を深められる環境】

「もっと○○したい」という思いや願いがふくらむように、またペアやグループでの活動が十分にできるように、教室の真ん中に広いスペースをつくりました。



【これまでの経験を聞く】

子ども達は、どんなところに秋のものがたくさんあるのか、**これまでの経験**でよく知っています。「園ではどうだった？」と**子ども達**に聞きました。

教師の援助



遊びを楽しむ

【主体性を引きだす】

子ども達の様子をよく見て、見守ったり、タイミングよく「どうしたい？」と問うたりするように心がけました。教師がさせたいことを伝えるのではなく、子どもがしたいことを**自分で見つけていける**ような関わりを普段でも心がけています。

【子どもにゆだねる】

これまでの学習で、子ども達は活動の見通しをすでにもっているため、教師の話は最小限にし、**子ども達にまかせました**。



この授業では、子ども達の意欲が引き出され、遊び方を分かりやすく説明しようと自分から進んで関わったり一緒に遊びながらさらに試したりするなどの姿が見られました。子ども達が自ら活動を進め、終わった後の振り返りは充実感や次への意欲にあふれています。

環境構成を大切にし、一人一人の子どもの姿の見取りをもとにした援助を行うことで、子ども達の「なぜ？」「やってみたい」につながっていました。

Point

子ども達が自ら問い合わせをもち、主体的に学びを進めていくためには、教師の関わり方の転換が必要です。教師が一方的に教えて子ども達の興味・関心や気付きを奪ってはいないか、子ども達自身が試行錯誤しながら学んでいける学習環境や言葉がけになっているか見直してみましょう。